鎌倉地域の漁業支援施設整備に係る説明会　議事概要

１．説明会の概要

日　　時：令和３年（2021 年）３月２８日（日）　１３：００～１５：００

場　　所：坂ノ下斜路

参加人数：45 名

２．議事結果

漁業支援施設整備事業について説明を行った。

３．質疑応答

１３時～

発言者１

漁業支援施設を整備しようとするエリアは、マリンスポーツユーザーが多く使用しているところになる。これまでも漁師とは仲良くやってきたが、施設整備後も同様に仲良くやっていきたい。そのために、計画として決定しているところもあると思うが、まだ考慮の余地がある部分については、我々の意見も加味して頂ければと思う。

マリンスポーツをする人は多く、夏はここ(斜路)からしか出艇できないので、人が集中する。漁業支援施設の CG をみると、出艇エリアがとても狭いようだが、マリンスポーツをやる人たちも、出艇エリアを考え直してもらう等の配慮をして頂きたい。

発言者２

・日本の経済、私たちの社会というのは自然の上に支えられており、自然が持続可能でなければ経済も社会も暮らしも持続できない。砂浜・海岸の恵みをいかに頂きながら暮らしていけるか。そういうことを考えなければいけないところに来ている。

・今世界中でいろいろな生き物の絶滅が進んでおり、気候変動や災害の増加により自然の恵みがどんどん減っている。これ以上開発を進めるのではなく、自然の豊かさを取り戻していかなければいけない。

・今はしらす、カタクチイワシの産卵の時期であり、稚魚は浅瀬で育つ。砂浜は大切な役割をもつが、その自然(砂浜)の大切さというのはあまり知られていない。

・日本自然保護協会も決して漁業が発展することをよくないと言っているわけではない。今世界が持続可能であるために SDGs という言葉が最近使われているが、それを成し遂げるために、漁業も豊かでなければいけないし、自然も豊かでなければいけない。

・市の資料ではイメージと書かれているが、目的と手段がどこまでが適正で、どこまでがこれから変更できることなのか、おそらくこの漁業が成り立つこと、私たちが海での自然を楽しめる事そういったものと両立するための方法がまだまだあると思う。それが提示されているイメージ図の通りなのかどうか、もっと時間をかけてみんなで考える必要がある。鎌倉の砂浜を残す為にはもう少し広い視野で見て、砂浜の環境に影響がない場所、やり方というのを是非選んで頂きたい。

質問者１

・パンフレットには来年度から漁港の詳細設計が始まるとあるが、具体的なスケジュールは既にあるのか。

⇒今後のスケジュールは、まず、令和 3 年度～4 年度でどこの区域を漁港にするかという手続きをするために必要な作業をしていく。区域を定めた後、順次具体的な作業に入るので、だいたい着工が令和 8 年度あたりになり、10 年間かけて整備していく予定。

・イメージ図では既設の突堤と斜路の間に施設を造るとなっているが、今後の詳細設計において拡大する可能性はあるのか。

⇒突堤の遮蔽されたところで、整備するために必要な基準を満たすものである程度整えられたものでイメージ図を作成しているので、その図に基づいて詳細な設計をしていくことになり、極端にそれを拡大する等はない。当初、昭和の終わり頃から検討を重ねてきた計画からは環境面等も配慮してかなり小さいものにはなっている。また、場所についても漁師と協議し、この場所でできる限り環境に負荷をかけないように配慮してきたので、場所をここに定めたから、後は好きなだけ大きくする等言うことはなくて、基本的にはイメージした大きさで詳細な内容を詰めていくことになる。

質問者２

・漁業支援施設を造る場所として、なぜこの坂ノ下が選ばれたのか。

⇒この場所にした経緯として、鎌倉の湾の中でどこがいいかというのは昭和 60 年代の対策協議会においても検討されており、案としては海岸沿いで何カ所かあった。その後、波の影響等のメリット、デメリットの評価をした 3 案が出され、協議会から平成 22 年度に答申が示された。その後突堤の影響とか、波の影響、砂の動き等を色々考慮した結果、既存の構造物と構造物の間で環境に一番負荷がかからないようなもので、施設として成り立つ様な場所はどこかという調査等を何年かかけてやった結果が今の場所となる。また、岩場だと魚が住み着く場所となるが、この場所は砂地で希少種が特にいないので影響は少ないと考え場所を決定した。

・マリンスポーツの関係者とはどういった調整をしているのか。

⇒直接の調整はこれからになる。なお、施設整備の場所については、現在砂浜には浜小屋や船があり、船を出し入れするときにマリンスポーツの方と交錯するような場面多々あったかと思う。このような危険なことが施設に集約されることで、直接マリンスポーツの方が安全に海へ出られるような状況ができると言うことのメリットなども考えてこの場所に決めた。

質問者３

・誰のための施設なのか。施設に移る漁師の人数は何人いて、そのうち専業で漁業をやっている者は何人いるのか。また、施設整備による経済効果はどのくらいあるのか。漁業者全員が施設を作りたいといっているのか。

⇒鎌倉漁業協同組合で約 50 人いる。細かく専業の方何人というのは今すぐに答えるのは難しい。組合としての総意で、この施設の整備が望まれている。漁師 50 人のために造る施設なのかという話によくなるが、決してそうではなく、例えば漁師が獲った魚を鎌倉市内の方が、直接買える場所が今までなかったの

が、買えるようになるということや、漁師による海の中の資源管理というものも充実してくる。なぜなら、施設整備をすることでなかなか海の状況によって船をだせなかった日にも漁に出られるようになる。そのため、単純に漁師がお魚を獲るためだけではなく、それによって市民の方にも還元され、具体的に経済効果はいくらと、数字で算出していないが、将来のビジョンを定める水産業振興計画は学識の方等も入れて施設整備の必要性というのも確認させていただいているというところで、整備に向かって進めている。

質問者４

・施設整備による得られる利益しか説明がされていないが、失われる利益は何があるのかを説明すべき。

⇒例えば一時的に自然環境が失われる部分とかそういうものに対しては確かに工事をすれば当然失われるものもあると思うが、それが一時的なものではなくて、その先何年かかけて回復される自然環境もあり、単純に失われるもの、その先もずっと失われ続けるものかどうかというのはまた別の話だとは思われる。しかしながら、施設整備をすることで生み出される新しいものもあると考えている。

これから整備を進めていくにあたり、環境評価等もあるが、施設整備に必要な調査を実施しながら進めていきたいと思っている。あらかじめ何か評価しているものあるかという点においては、ある程度の調査はしており、希少種がいないということであるとか、そういう話の中で一時的に失われたものが後から回復されるものもあるという考えはもっているが、それ以上具体的に評価しているかとなるとまだ行っていないので、その段階でご説明させて頂くことになると思う。

質問者５

・砂とか、生物や流れを調査したという話だったが、その調査結果はあるのか。具体的にその調査を行ったのはどのような機関でどういう調査を行ったのか。

⇒海の調査を専門におこなっている業者に市が委託をして調査している。調査時期については複数年かけて様々な調査を行っているため、具体的に何年に何をというのは今すぐには答えられない。また、波の動きや、構造物を造ったことで、砂の動きがどのようになるのか等、解析した調査結果がある。調査結果については、市で保管をしている。

・調査結果を見せてもらうことはできるのか。

⇒内容によって情報公開等の手続きが必要な場合もあり、公開することは可能。

質問者６

・施設整備に 15～20 億かかるということだが、コロナで財政がひっ迫している時期にする事業なのか。

⇒市の財政的な話は、当然コロナの影響等でひっ迫している部分はあるが、どの年に何をやるというのは毎年その財政状況次第になる。15 億～20 億円という事業費は、そこに国の補助等を入れるということにより、全額を市で負担するという事ではない。しかし、当然税金で賄う部分はあるので、計画的にお金を使わせていただくということで、令和 8 年度あたりからの着工という事を説明させていただいている。あくまでも計画上の話で、例えばその年に税収が落ち込んで、そこにお金をかけられないとなれば、事業自体を 1 年先延ばしにする等の対応もあり得る。ただ、ある程度計画的に進めていかなければ物事が進まないので、工程は示させていただいた。市としては工程に沿ってやっていくということになる。あとは

財政的に、実施できるかどうかという交渉になる。
国の補助については、補助のメニューや内容にもよるが、補助率１／２のものがある。あとはどの部分にどの補助を充てていくかというところで、もっと補助がでる部分もある可能性もあることから、今も県と調整を進めている。

質問者７
・施設整備による砂浜（自然）への影響がどうなのか。どの程度調査を行っているのか。
⇒説明会の議事録と合わせて調査結果については公表できるような形で作業を進めている。
調査結果では、大体 50 年で１～２m 程度の波打ち際の線の動きという解析の結果も出ていることから、それによって大きく影響が出るとは考えていない。生物への影響については、市としては施設を造るだけではなく、施設を使って漁師さんが海の中でどういうものを獲っていけるのかという話にもなるので、ただ造るだけでなく、生物が残るようなことも考えて整備していくことになる。
・１～２m 動くとなると、砂浜が減ってマリンスポーツへの影響が出ると思うがいかがか。
⇒１～２mというのは、波ではなく波打ち際の線、砂浜の線が 50 年でそのくらい動くということ。生物の話についても当然技術的な部分もあるので、県の技術センターとも協力しながら話を進めている。施設を造る話だけさせて頂いているが、ただ施設造るだけじゃなく、それ以外のものも当然並行してやっていく。

質問者８
・気候変動等の影響による海面上昇が止まらない状況となっているが、この計画についてのモニタリング調査の予定等はどのようになっているのか。また、計画を実行した場合の後のモニタリング調査はどのようになっているか。
⇒調査の時期等はこれから調査スケジュールを立てていく。概ね令和 8 年度くらいの着工という説明をさせて頂いているが、具体にいつというのはまだ確定していないため、スケジュールが固まってくれば、示すことになる。
気候変動はどう考慮しているかという件について、現時点では考慮していない。現時点では国の明確な設計基準が示されていない。今後、国の設計基準の改定に合わせて考慮していく。

質問者９
・正しそうな答えが出てからそれがどうか、とみることはできないのか。今正しいか分からない答えを基に施設を造っても、今後正しそうな答えが見えてきたらその時はどうするのか。
⇒今示されている基準にあてはめると、正しいというものなので、今の時点では正しいという答えになる。将来基準が変わったときに、必要であればそこに置き換えたもので計算し直すことになる。
・現時点の正しい基準で事を進めて、着工までに基準が変わった場合に、その時点でそれが正しくないことになるが、その時はどうするのか。
⇒国の補助を入れて整備する施設になるので、基準が示され必要があれば修正をする。

質問者１０

・施設整備には税金が使われることになるが、最も必要としていると思われる漁業者の意見を聞きたい。
発言者（漁業者１）
・私たち漁業者には長年の悲願で、この漁港に対して真剣に取り組んでいる。先ほども砂の浸食とか色々と問題があり、今現在だいぶ砂がなくなり、台風が来たときは小屋に波があたるような状態。１日も早く支援施設ができることを願っている。
発言者（漁業者２）
・このまま砂浜が痩せていくと、漁師小屋も無くなってしまう。浜がまだある方に移動すればいいと言われるが、以前、移動したときは、小屋の背面に住んでいる方から大反対にあった。そういったこともあり、施設を整備して、そこに小屋を建てたいと思っている。ウィンドサーフィンとの兼ね合いについては、現在の施設の設計ではそれほどバッティングすることはない。むしろ今の方が多いと思う。

質問者１１
・気候変動により海面が上がったら、より高い位置に施設を造らなければいけない。その分予算も当然割り増しになるだろうと想像できるが、その場合どういう調整が行われるのか。
⇒前提条件がないとそれに見合った構造物は造れないので、それが施設の設計基準として示されたときに基準どおりに設計する。あらかじめ現在の基準以上の海面上昇を見越して、高規格のものを造ればいいのかというと、それも必要以上のものを造ることになり、それに対して当然国から補助がでないということもある。そうすると、基準以上のものは市の税金で賄うしかないということになるが、根拠のない予測で大きなものを造るというのはできない。

質問者 11-2
・15～20 億という巨額の予算をかけて造る施設で、施設を造ったらメンテナンスがある。いわゆるランニングコストは絶対かかる。造るときは国や県が補助してくれるが、航路（海底）に溜まった砂を浚渫するなどランニングコストは全て鎌倉市のお財布になる。また、マリンスポーツユーザーも使用する海域であり、その辺も十分に検討してほしい。鎌倉市には、マリンスポーツを担当する課がなく、マリンスポーツユーザーの立場から積極的にアピールしていかないとマリンスポーツを保護してもらえない。
市（補足説明）
航路（海底）に砂が溜まった場合、溜まった砂を市のお金をかけて浚渫するのかという件について、それに対して国の補助がでる。このようなランニングコストのことも考えて施設整備を検討している。浚渫した砂をどうするかというと、例えば、砂浜に戻してサンドバイパスみたいな形で戻すとかそういう手法もあるので、そうすれば養浜にもなる。市としては、漁業を支援する立場ではやっているが、養浜の関係、マリンスポーツの方との関係というのも当然、同じ海を考える上で必要なものは合わせて検討していきたいと思っている。ただ単に施設を造りたいということで話を進めているわけではないということをご理解いただきたい。

発言者３
・漁港の建設については今まで調査してきたことだとか、比較検討した内容というのが論理的にどういった内容かというのをちゃんと理解して、メリット・デメリットであるとか、得られるもの・得られなく

なるもの、それがどういう評価なのかということを知りたい。その上で各個人がそれぞれ考えることが大事だと思う。

発言者４
この２～３年で海岸は大きく変化した。施設を造ると、後で海岸の浸食と県のサンドリサイクルの関係上、いろいろな問題が出てくるのではないかと心配している。事業が進んでしまうと、後戻りできない。本当に坂ノ下のこの場所に施設を造っていいのかと疑問に思う。過去には市営プール前あたりが適地とされていたと思うが、なぜ今になって坂ノ下の場所が選ばれたのか。海岸の状況が変化する中で、位置の見直しをする必要があるのではないか。

質問者１２
・漁師さんは本当にこのイメージ図の施設として納得しているのか。波に向かってスロープを造るかたちになっているが。
⇒発言者（漁業者３）
　今現在ある突堤をかさ上げして波を消してというような形を予定している。小坪も腰越の漁港でも南にむかって同じようにスロープを設置している。
⇒施設の大きさや形とかを含め漁業者さんとは話をしている。波に向かってあの形でいいのかという点については、既設の突堤を使って、斜路と突堤の間に静穏域をつくることで、計算した上で、成り立つということで検討している。

質問者１３
・材木座の漁師は、貸しボートなどもやっていることから、坂ノ下に施設を造っても移るのは厳しいのではないか。

発言者（漁業者４）
　材木座で漁をやっています。この施設ができたら、材木座の漁業者も全員こちらへ集約すると言う約束で話をしている。かなり不便にはなります。もちろん、材木座にお店も家もありますし、凄く時間的にも不便はでますが、それでもやはり安全のために施設が必要ということで、無理をしてでも我々はこっちに来て漁をやらせて頂こうと思っている。
　今の時代にそぐわないというのも確かにうなずけますが、漁港が欲しいというのは今言い始めたことではなく、50 年も前からずっと願ってきたことです。それがかなわないで、今になってしまったというところもご理解頂きたい。
　コンクリートの塊を入れると言うのは確かにいいことでは無いと思います。イメージ的にも。ですが漁業というのは日本全国どこをみても、漁師はコンクリートの港から漁に出ています。砂浜から出ているのは我々しかいないです。それははっきり言ってちゃんとした漁業の形ではなくて、波もどんどん荒くなっていますし、日々、怖い思いをして漁をやっています。仲間と助け合いながらやっていますが、前回の波が怖くてトラウマになって出漁できないとかそのような状況です。だからどうしても、コンクリートのしっかりとした施設が必要で、漁港が必要でした。さっき話にあった、もう少し沖にある、ちゃんと

した漁港施設、それが我々の希望するベストの施設で、今の計画は我々にとって、はっきり言ってベストではないです。でも、ベストの理想の形態は市民の反対が非常に大きくてかなわなかった。なので、色々試行錯誤して、色々な自然環境への負荷や海への影響とか考えた上で、ここに漁港ではなくて斜路を造る、漁業支援施設という名前ではありますが。我々もなんとかそれだけでも造って頂ければと言うことで、納得して今お願いしているところです。

ここから出てマリンスポーツの方と確かに近寄ることはあると思います。でも、我々はある程度の水深のあるところで、船を操船する場合は、よけたり、ちょっと待ったりできます。でも今波打ち際だと海から浜へ上がるときには後ろから波が来るので、操船が上手くできないのです。波に下手に乗ってしまったら、完全に舵が効かなくなってしまって、サーファーをひいちゃうんじゃないかとか、サーファーをよけて、自分の船が横向いて転覆したとか、もうリスクが全然違います。